2 要点・段落

学習目標
- 話題やキーワードに着目し、段落の中心となる内容が書かれた部分とそれを支える部分を読み分けよう。
- 各段落の内容をつかみ、その段落が果たす役割を捉えよう。

要点のまとめ

●要点

要点とは？ 文章の中心となる、大切な事柄。

要点の捉え方

❶文章中で繰り返される語句（＝キーワード）を捉え、話題をつかむ。

❷段落の初めや終わりの方に着目して、中心文を見つける。
- まとめを述べた部分「つまり」「要するに」「このように」「……べきだ。」「……と考える。」 → 中心文を見つけるヒント
- 筆者の意見を述べた部分
- 具体例や理由を述べた文、たとえを用いて表現した文などは除く。

●段落

段落の役割の捉え方

❶各段落の要点を捉える。

❷段落冒頭の接続語に注目して、前後の段落のつながりを捉える。

順接	例だから・したがって	逆接	例しかし・だが・ところが
並列・累加	例また・そして・しかも	対比・選択	例あるいは・または・一方
説明・補足	例つまり・ただし・例えば	転換	例さて・ところで・では

❸文章全体の中で、その段落がもつ役割を考える。

確認問題

●○● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 日本人は自己主張が苦手だと言われる。グローバル化の時代だし、もっと自己主張ができるようにならないといけないなどと言う人もいる。でも、日本人が自己主張が苦手なのには理由がある。そして、それはけっして悪いことではない。

2 ①では、アメリカ人は堂々と自己主張ができるのに、僕たち日本人はなぜうまく自己主張ができないのか。

3 それは、そもそも日本人とアメリカ人では自己のあり方が違っていて、コミュニケーションの法則がまったく違っているからだ。

4 アメリカ人にとって、コミュニケーションの最も重要な役割は、相手を説得し、自分の意見を通すことだ。お互いにそういうつもりでコミュニケーションをするため、遠慮のない自己主張がぶつかり合う。お互いの意見がぶつかり合うのは日常茶飯事なため、まったく気にならない。

(1) 話題 この文章の話題を、「……について。」に続くように、十五字以内で書きなさい。

［　　］について。

ポイント 「日本人は自己主張が苦手だ」「日本人はなぜうまく自己主張ができないのか」などと繰り返されていることに着目。話題は、問いかけの形で示されることも多い。

(2) 接続語 ――線①「では」・②「一方」という接続語の働きとして適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 順接　イ 逆接　ウ 累加
エ 対比　オ 説明　カ 転換

①［　　］　②［　　］

ポイント 接続語は前後の関係を示すため、段落冒頭にあるときは、その段落の働きを考える手がかりとなる。
①…前置きを述べる部分と問題提示をする部分で、前後の話題が変わっている。
②…前後でアメリカ人と日本人のコミュニケーションを比較している。

5 ②一方、日本人にとって、コミュニケーションの最も重要な役割は何だろう。相手を説得して自分の意見を通すことだろうか。そうではないだろう。僕たちは、自分の意見を通そうというより前に、相手はどうしたいんだろう、どんな考えなんだろうと、相手の意向を気にする。そして、できることなら相手の期待を裏切らないような方向に話をまとめたいと思う。意見が対立するようなことはできるだけ避けたい。そうでないと気まずい。

6 つまり、僕たち日本人にとっては、コミュニケーションの最も重要な役割は、お互いの気持ちを結びつけ、良好な場の雰囲気を醸し出すことなのだ。強烈な自己主張によって相手を説き伏せることではない。

7 だから自己主張のスキルを磨かずに育つことになる。自己主張が苦手なのは当然なのだ。その代わりに相手の気持ちを察する共感性を磨いて育つため、相手の意向や気持ちを汲み取ることができる。

8 相手の意向を汲み取って動くというのは、僕たち日本人の行動原理といってもいい。コミュニケーションの場面だけではない。たとえば、何かを頑張るとき、ひたすら自分のためというのが欧米式だとすると、僕たち日本人は、だれかのためという思いがわりと大きい。

9 親を喜ばせるため、あるいは親を悲しませないために勉強を頑張る、ピアノを頑張る。先生の期待を裏切らないためにきちんと役割を果たす。そんなところが多分にある。大人だって、監督のために何としても優勝したいなんて言ったりするし、優勝すると監督の期待に応えることができてホッとしていると言ったりする。

10 自分の中に息づいているだれかのために頑張るのだ。もちろん自分のためでもあるのだが、自分だけのためではない。

11 このような人の意向や期待を気にする日本的な心のあり方は、「他人の意向を気にするなんて自主性がない」とか「自分がない」などと批判されることがある。でも、それは欧米的な価値観に染まった見方に過ぎない。

〈榎本博明「〈自分らしさ〉って何だろう?」より〉

(3) 要点　4段落の中心文を抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

［　　］～［　　］

ポイント「中心文」とは、その段落の中心となる内容を述べた一文のこと。段落の中の文章は、要点を述べる中心文と、その説明部分とに分かれることが多い。

(4) 段落の役割　6・9段落の働きの説明として適切なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア　前の段落で述べた内容を理由として結果を述べている。
イ　前の段落で述べた内容と対立する事柄を述べている。
ウ　前の段落で述べた内容とは違う話題を挙げている。
エ　前の段落で述べた内容を言い換えてまとめている。
オ　前の段落で述べた内容の具体例を挙げている。

6［　　］　9［　　］

ポイント 段落冒頭の接続語の働きや段落の内容を考えることで、各段落の働きを捉える。
6段落…接続語「つまり」には、前で述べた内容を要約する働きがある。
9段落…前段落で述べた、「だれかのため」に頑張る例が列挙されている。

(5) 要点　11段落の要点をまとめた次の文の［　　］A・Bに当てはまる言葉を、Aは十二字、Bは七字で文章中からそれぞれ抜き出しなさい。

▪日本人の、［A］という心のあり方を批判的に捉えるのは、［B］に影響された考え方のせいである。

A［　　］

B［　　］

ポイント 11段落は、事実を述べた文と筆者の主張を述べた文（＝中心文）の二文で構成されているので、中心文に着目して要点をまとめる。中心文に指示語が含まれている場合は、指示内容が明らかになるように言葉を補って要点をまとめる。

演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 文章を書くことが現代社会においてどんな意味を持つかについて、少し私なりの考えを述べておきたい。

2 私は、書くことの第一の意味は、国語力、そして論理力、分析力や教養を養うこと、つまり知的になることだと考えている。

3 最初に確認しておきたいのは、国語力こそが論理力を養うということだ。小・中学校などで、国語力がないと、算数・数学や英語ができても、だんだんと成績が落ちてしまうとよく言われる。①人間は母語を使って考える。考えるということは、母語を上手に使うということにほかならない。だから国語力がなければ、数学もすじみちを通して考えられないし、英語も読解できない。国語力がつくと、思索力がつく。

4 では、どうすれば国語力・思索力が養われ、深い教養が身につくのか。昔から言われてきたのは、良書を読むことだ。しばしば指摘される現在の若者の論理力、思索力、読解力の不足は、彼らが良書を読むという習慣をほとんどなくしていることに由来していると言って間違いないだろう。したがって、もちろん、良書を読むことをもっと奨励し、その楽しさを、多くの若者にわかってもらう必要があるだろう。

5 が、良書を読むこと以上に国語力を養うのに適した行為がある。それが、文章を書くという行為だ。たとえば、野球を例にとると、いくら野球を観(み)ても、野球をほんとうには理解できない。観ることが上手になるだけだ。が、少しでも野球をしたことがあると、選手の気持ちを含めて理解が深まる。つまり、実践してこそ物事の理解が深まるわけだ。文章も、実践して、つまり文章を書いてこそ論理力が養われる。

6 したがって、頭の訓練のためにも、文章を書くことが必要だ。教え子のなかに、文章を書くようになって驚異的に国語の成績が上がり、それに

(1) 話題 この文章の話題を、「……について。」に続くように二十字以内で書きなさい。

について。

ポイント 「……について、……考えを述べておきたい。」という冒頭の一文に注目する。

(2) 要点 ——線①「人間は母語を使って……ほかならない。」とありますが、このことを根拠として、筆者が3段落で伝えようとしていることは何ですか。「……ということ。」に続くように、文章中から十二字で抜き出しなさい。

ということ。

ポイント 段落の要点をつかむには、中心となる内容を述べた部分と、それを支える説明部分（具体例や理由など）とを読み分ける。ここでは、「人間は……ほかならない。」という説明をもとに筆者が主張しようとした内容（＝要点）を捉える。

(3) 要点 5段落の要点を、文章中の言葉を使って、四十字以内で書きなさい。

ポイント 「たとえば」は例示の接続語。要点をまとめるときは、筆者が最も言いたい内容を捉えるために、具体例やたとえを使っている部分は除く。

ともなって英語もぐんぐんと上がったという生徒がたくさんいるが、それはまさに、このような事情による。

7　現代社会では、自分で問題を見つけ、現実を読み取り、未来を予測し、分析し、論理的に思索し、それを発表して人と議論することが求められている。そのような能力は、まさに書くことによって得られるのだ。だからこそ、文章を書くという作業こそが、これからの社会では重要な意味を持ってくる。

8　若者には若者の考え方、感じ方がある。高齢者には高齢者の考え方、感じ方がある。それぞれの人がミニコミ誌やインターネットや手紙を通じて自分の意見や人生観を表明していく。そして、互いに議論を重ね、多様な考え方、感じ方を受け止めていく。そうすることが、②一人一人の能力を高め、ひいては社会全体を知的で活発にしていくと考えられる。

9　今や、子どもから高齢者まで、あらゆる人々が自分で考え、自分の意見を発表する力を養う時代が来ていると言えるだろう。そして、これまでの「ありのままの自分」を描こうとする*従来の「綴方」でなく、もっと遊びがあり、楽しく、気楽な行為として文章を書いてこそ、そのような力が自然のうちに養われると思うのだ。

（樋口裕一「ホンモノの文章力」より）

（注）従来の「綴方」＝日本の作文教育において推奨されてきたような、事実をありのままに書くことをよしとする、道徳的で教育的な文章。

(4)　段落の関係　4段落と5・6段落の関係として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　4段落で述べた内容を発展させた意見を5・6段落で示している。
イ　4段落で述べた意見を5・6段落では別の言葉で言い換えている。
ウ　4段落で述べた意見について5・6段落で具体例を補っている。
エ　4段落で挙げた事実に対する反論を5・6段落で述べている。

ポイント　4段落……国語力を養う方法①「良書を読むこと」…昔ながらの方法
↔ 5段落冒頭の「が」に着目
5・6段落…国語力を養う方法②「文章を書くこと」…筆者の意見

(5)　指示語・要点　――線②「一人一人の能力を……活発にしていく」とありますが、そのための行為として、筆者はどうすることを挙げていますか。連続する二文を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

ポイント　「そうすること」の指示内容を探す。累加の接続語「そして」に注意。

(6)　文章の把握　――線「文章を書くという……重要な意味を持ってくる」とありますが、筆者がそのように考える理由についてまとめた次の文の［　］A・Bに当てはまる言葉を、Aは文章中から四字で抜き出しなさい。Bは文章中から五十字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

▪文章を書くことによって、［A］で求められる［B］能力を身につけることができるから。

A

B

ポイント　「だからこそ」…順接の接続語。筆者が――線部のように考える理由が、それより前の部分に書かれていることを示している。

実戦問題

◆◇◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。 〈徳島改〉

1 なぜヒトは過酷な平原・サバンナに進出していったのか。実はその時代、地球上では乾燥・寒冷化が進んでおり、生息地であるアフリカの森林が少なくなっていた。その際に、最後まで残された森林にしがみついていたのが現在のチンパンジーであり、環境変化のためにサバンナに出て行かざるを得なかったのがヒトであった。森林をチンパンジーたちにとられてしまったともいえるが、外の世界に出て行かなくてはならなかったことが、後の進化につながることとなる。

2 森林からサバンナに出た彼らを待ち受けていたのは、大変に過酷な生活環境であった。まず、水がほとんど存在しないのだ。水場がところどころに点々としかないので、水場から水場へ歩いて移動するにも長距離を移動しなくてはいけない。そして気温が高いので、汗をどんどんかいて体温調節をする必要がある。この環境のために、彼らは体毛を失い、代わりに汗をかくための汗腺という器官が増えたと考えられる。

3 私たちヒトは暑さで汗びっしょりになるが、こういう哺乳類は実はあまりいない。ウマは汗をかくが、イヌやネコはそんなにかかないし、そもそもそんなに長距離を走るようにはできていないのだ。ヒトの特徴の一つとして、長距離移動が可能であることが挙げられる。チーターなどは高速で移動できるが、長距離は走れない。これも汗腺と同じように、サバンナに適応し生き抜くための、ヒトの進化である。

4 次に、食べ物の問題がある。それまでは樹木が生い茂る森で、木々の葉っぱや果実をもぎとって食べていればよかった。しかし、サバンナにはヒトが簡単に手に入れられるような食料は、ほとんどない。シマウマのような、タンパク質の塊ともいえる草食動物が多く生息してはいるが、ヒトは肉食動物ではない。肉食動物はつめやきばを持ち、ほかの動物を食料にできるが、木の上で暮らしていた*霊長類が簡単にほかの動物を狩ることはできなかった。では、植物はというと、こうした過酷な場に生息する植物は水分をあまり含んでおらず乾燥しているものが多い。また、外殻が硬かったり、水分を含む実の部分は地中に埋もれていることがほとんどである。そうした実をとるためには地面を掘らなくてはならないが、器用さを重視した手なので、つめで掘り進むこともままならなかった。

5 では、彼らはこの難局にどう適応していったのか。一つは、食料を確保するために、自然を利用して非力さをカバーする道具を製作し、活用することを覚えた。石器を使っての狩りや、食物採取である。

6 そしてもう一つ、目標のために役割分担し複数で共同作業をすることを知ったのである。それまでのように、一人ひとりが群れの中で勝手に暮らすのではない。群れという組織において、互いが自分と相手の果たすべき役割を理解し、目標達成のために何をするかを考え、いっしょに行動する。群れ全体が自分の立ち位置と役割を意識する集団となり、こうした社会関係の理解こそが、*類人猿とは異なる、ヒトをヒトたらしめた最大の分岐点になったのだ。このときを契機として、ヒトの脳は著しく進化する。やがてヒトは、ほかの動物と比べて格段に大きな脳を持つようになった。これは過酷な環境でヒトが編み出した、生き抜くために必要な進化だったといえるだろう。

7 人類は二足歩行に加え、大きな頭部を持つように進化したが、その頭部で特に大きいのが脳である。最初から大きかったのではなく、３００～４００万年前の時点では、チンパンジーやゴリラとあまり変わらなかった。しかし、サバンナに出て行き環境に適応した*ホモ属が出てきた頃から、一度急激に大きくなる。その後しばらく、大きさは変わらないが、*現在のホモ・サピエンスが登場したときに、またもう一段大きくなったのである。

8 実際に脳の大きさを比較してみると、チンパンジーの脳の容量が約３８０ccであるのに対し、ヒトは約１４００ccある。しかも、進化の過程で単純にチンパンジーの脳がそのまま大きくなったということではなく、目の裏側の部分から頭のてっぺんにかけて、おでこ周辺にある前頭前野という部分が特に大きくなっているのだ。

9 その前頭前野とは、何を司る部分なのか。脳の働きは解析されてきたが、前頭前野にあたる部分がどのような機能を持っているかは長年わからなかった。近年ようやく、前頭前野は「自分を客観的に見る」感覚を司っていることがわかってきた。自分が何をして、何を感じているか。そして他人が何を思い、ど

う感じているか。自分の気持ちを参照しながら、相手が何を感じ考えているかを知るための器官なのだ。また、自分が何を欲しているかということもモニターしているので、それと連動して、目標を達成するために、次に何をしなければいけないかといった物事の優先順位を決める役割もある。

10 前頭前野の働きをほかの霊長類と比較すると、サバンナに出て環境に適応したヒトが、他人の心を読んで共同作業をし社会生活を営むようになった、という進化の過程がわかるのである。

※一部省略等があります。　（長谷川眞理子「ヒトはなぜヒトになったか」より）

（注）霊長類＝ヒトも含めたサルの仲間の総称。
類人猿＝人間に最も近く知能が発達した猿類。　ホモ属＝ヒト属。
現在のホモ・サピエンス＝現生人類。　モニターする＝観察する。

(1) 話題　この文章の話題を、「……について。」に続くように、八字で書きなさい。

［　　］について。

(2) 要点　――線「食べ物の問題」とありますが、サバンナで簡単に食料を手に入れられないヒトが、問題解決のためにどのように適応していったのかについて、次のようにまとめました。［　　］A・Bに当てはまる言葉を、Aは九字、Bは七字で文章中からそれぞれ抜き出しなさい。

- ［A］するようになった。
- 目標のために役割分担し、複数で共同作業をするようになった。

⇩（ヒトが類人猿とは異なり、［B］が可能になったことを示している）

A［　　］

B［　　］

(3) 要点　9 段落の要点をまとめた次の文の［　　］に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。

- 前頭前野は「自分を客観的に見る」感覚を司るという機能を持っているので、［　　］ことができる。

60

(4) 段落の関係　この文章の段落の関係を説明したものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　1 段落の問題提起に対する答えは、2・3 段落で示されている。
イ　3・4 段落で挙げられた問題は、5・6 段落で解説されている。
ウ　6 段落を受けて、7～10 段落ではさらに詳しく説明されている。
エ　10 段落は、1～9 段落をまとめて新しい話題へと展開している。

［　　］

(5) 文章の把握　文章中に書かれている内容と合うものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ヒトは水を調達するため高温の中での長距離移動が必要になったので、汗で体温調節ができるように汗腺が増えた。
イ　森林からサバンナに出たことでヒトは二足歩行が可能になり、群れではなく個人での行動を重視するようになった。
ウ　ヒトの進化の過程を解き明かすには、食習慣や食べ物の好みの傾向を、霊長類の他の動物と比較することが大切だ。
エ　ヒトの脳はチンパンジーやゴリラと同様に最初は大きくなかったが、ホモ属が登場した頃、現在の大きさになった。

［　　］

30

ポイント

(3) 9 段落はヒトの前頭前野について説明している。まず与えられた文を読み、「前頭前野はどのようなことができるのか」と考える。文章中の「……ための器官なのだ。また、……役割もある。」に着目して解答をまとめる。

(4) 各段落の要点を捉え、選択肢の内容と照らし合わせる。冒頭に接続語がある段落など、前後の関係が捉えやすい部分を手がかりとするとよい。